

「少子高齢社会の課題解決に資する AI 技術とは」

日本では今まで経験したことのない少子高齢化が急速に進み、様々な社会課題が顕在化しています。社会保障、介護、地域社会の崩壊、高齢者の社会参加など、解決すべき課題は山積しており、工学的な面から課題解決に向けた取り組みも行われています。少子高齢社会では日本は世界をリードしていますが、欧州はもちろん、米国でも高齢化が鮮明となり、人口の多い中国は既に大きな問題に直面しています。同様の社会問題は今後世界各国で生じていくことは確実であり、この問題に対する取り組みの研究成果は、日本だけでなく、世界に大きなインパクトをもたらすでしょう。

研究成果を少子高齢社会の課題解決へ現実に役立てるためには、現場との交流・意思疎通が極めて重要です。産業界と大学との連携も成功に向けた鍵となります。少子高齢化の問題解決に必要な科学技術は、医療や ICT、ロボティクス、材料工学、バイオロジー、都市設計から金融工学まで、極めて広範な研究領域を含みますが、今回は“AI”という切口でセミナーを企画しました。少子高齢社会の課題解決に資する AI の応用技術とはどのようなものか、開発された技術の社会実装に向けて何が必要かを考えるのがセミナーの趣旨です。超高齢社会における ICT の活用実践的に取り組んでいる講師の方々によるご講演と、本学における関連分野の研究紹介を通じて、現場と研究をつなぐ意義とその方策について考えたいと思います。

皆様のご参加をお待ちしております。

日時： 2019 年 6 月 28 日（金） 13:20～17:30

場所： 東京工業大学大岡山キャンパス 西 9 号館コラボレーションルーム
東急大井町線・目黒線 大岡山駅 徒歩 4 分

<https://www.titech.ac.jp/maps/>

<http://www.dst.titech.ac.jp/outline/facility/hall.html>

参加費： 無料（事前申込み必要、定員 60 名、先着順。懇親会は 2,000 円）

申込方法： 6 月 24 日（月）までに申込み用 Web ページ（以下 URL）から申込みをお願いいたします。

<https://form.gsic.titech.ac.jp/eng/seminar/entries/new>

問い合わせ： 工学院情報通信系 山口雅浩（E-mail: yamaguchi.m.aa@m.titech.ac.jp）

主催： 東京工業大学工学院（開催担当：情報通信系、ヒューマンセントリックグループ）

協賛： 東京工業大学 社会的課題解決型データサイエンス・AI 研究推進体

東京工業大学・ライフエンジニアリングコース

プログラム

13:20 開会のあいさつ

13:25～14:20 「少子高齢化とイノベーションの泉 ～ 共創環境を築く」

近藤 隆（I-Commission 創業者兼代表）

14:20～15:00 「老年学的視点から考える、社会的な自立を支える最新技術の可能性」

澤岡 詩野（公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員）

15:00～15:30 「脳健康指標」

小池 康晴（東京工業大学 科学技術創成研究院 教授、工学院ヒューマンセントリックグループ）

15:30～15:45 休憩

15:45～16:15 「パーキンソン病の超早期診断と AI 支援」

三宅 美博（東京工業大学 情報理工学院 教授）

16:15～16:45 「自然にそこに居て高齢者と社会をつなぐコンパニオンのために」

梅室 博行（東京工業大学 工学院 教授）

16:45～17:15 「全てのシニアをインターネットに繋ぐ～シニア DX への道」

牧 壮（牧アイティ研究所 代表、一般社団法人アイオーシニアズジャパン 代表理事）

17:15～17:30 総合討論

17:30 閉会のあいさつ

18:00 頃～ 懇親会（参加費 2,000 円）

講師の紹介

近藤 隆 博士

I-Commission 創業者 兼 代表

1997年 東工大大学院博士課程修了、博士論文はAIの応用研究。日本の大手企業の研究所で研究・新製品開発に従事した後、2003年から2018年1月までシリコンバレーを拠点に活動。その間、2008年から約2年スタンフォードで客員研究員、シリコンバレーのエコシステムを研究した。元々技術系ですが、過去15年以上、イノベーション経営とマーケティングが主な関心領域。帰国後は、少子高齢化問題の解決に寄与するスタートアップ/既存企業の新規事業の立ち上げ・育成を支援している。

澤岡 詩野 博士

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員

老年学者。専門は、老年社会学(社会関係)、都市社会学、建築学(都市計画)。都市高齢者の周縁部の社会関係、社会とつながり続ける手段としてのICTの可能性、高齢期の第三の居場所(家庭、職場に続く居心地の良い場の形成)などの課題について研究している。著書「地方創生」へのまちづくり・ひとづくり(共著)ミネルヴァ書房(2016)他。日本応用老年学会監事、シニア社会学会理事、(公財)東京都防災・建築まちづくりセンター理事、内閣府平成27年度高齢社会フォーラム運営委員などを務めている。

<http://dia.or.jp/profile/researcher/sawaoka/>

小池 康晴 教授

東京工業大学 科学技術創成研究院 教授

同工学院情報通信系担当、工学院ヒューマンセントリックグループ。平成10年8月東京工業大学精密工学研究所助教授、平成21年から東京工業大学精密工学研究所教授、平成22年同ソリューション研究機構教授、平成28年から東京工業大学 科学技術創成研究院 教授、現在に至る。専門はヒューマンインタフェース、計算論的神経科学、運動制御・学習モデル。

三宅 美博 教授

東京工業大学 情報理工学院 教授

同情報理工学院知能情報コース担当。1989年東京大学博士課程修了、金沢工業大学助手・講師・准教授を経て1996年東工大大学院総合理工学研究科助教授、2010年同教授、2016年より同情報理工学院情報工学系教授。また、1996年より現在まで、「場の研究所」客員研究員理事を務めているほか、ミュンヘン大学人間科学研究センター客員教授、東京大学 人工物工学研究センター客員研究員、WALK-MATE LAB(株)取締役(CTO)などを兼務。研究分野は共創システム、コミュニケーション科学、認知神経科学、ヒューマンインタフェースなど。

梅室 博行 教授

東京工業大学 工学院 教授

東京工業大学理工学研究科制御工学専攻修了後、野村総合研究所勤務を経て東京工業大学工学部経営工学科、社会理工学研究科経営工学専攻、現在工学院経営工学系教授。専門は人の感情経験。人が感情的な経験をするということはどういうことを理解し、感情経験をデザインすることを研究室のミッションとしている。国際ジェロントテクノロジー学会(ISG)日本支部元代表。

牧 壮(たけし) 氏

牧アイティ研究所 代表、一般社団法人アイオーシニアズジャパン代表理事

慶應義塾大学工学部卒業。旭化成へ入社し、旭メディカル(株)常務→シーメンス旭メディテック(株)副社長→旭化成情報システム(株)社長を歴任し、'99年(63歳)定年退職。'99年に、牧アイティ研究所を設立。念願のリゾートオフィス計画を実行、マレーシア・ベナン島へ13年間移住して、インターネットを活用したグローバルなシニアのワークスタイルを実践した。日本では高齢化社会と情報化社会が同時に急速進行している中で、シニアがデジタルデバイドにならないための個人向けの支援活動に注力し、「ICT経営パートナーズ協会」「SSA(スマートシニア・アソシエーション)」「スマートシニア・タブレットPC活用研究会」の主宰・理事などを務めている。2018年には、「すべてのシニアをインターネットへ繋ぐ」ということの旗印とすべく「Internet of Seniors」という用語を商標登録。更に2018年12月に、「全てのシニアをインターネットで繋ぐ」という理念のもと、「一般社団法人アイオーシニアズジャパン」(IoSJ)を設立し現在その代表理事を務める。

IoSJのウェブサイト：<https://seniors.or.jp> , 牧さんの紹介：<https://www.exa2011.net/mebius-maki/>